

いい家ってどんな家？

～家の間取りを考えよう～

岩国市立美川小学校

実施学年：5・6年
児童数：12人（1学級）
実施教科：家庭科
実施時間数：10時間



いい家とはどんなものであるか、また必要な要素とはどんなことであるかなどについて、家の設計図を描くことを通して考えていった。



家の構造や作り方について調べ、お互いに情報を交換する中で、さらに学びを深めていく。

中学校の教諭や設計士の先生など、専門的な知識を持っておられる方々をお招きし、児童各自の作った設計図についてのアドバイスをもらうことでさらに考えを深めた。
自分たちで考えた設計図を用いて行うことで主体的な関わりをすることができた。



学習のねらい

家の設計図をつくることを通して、過ごしやすい家には採光、通気性などの要素があることに気づくことができるようにする。

家には単に住むという機能だけではなく、家族の憩いの場としての機能があることに気づくことができるようにする。

学習活動

- 1 先生の家を作るならどんな家がいいかを考え、簡単な設計図を作る。
- 2 家を作るにはいろいろな条件があることを知り、調べる。
- 3 調べたことをもとに、家の設計図を作る。
- 4 段ボール等を使い、家具の大きさからなどから家の広さを考える。
- 5 中学校の家庭科教諭を招き、設計図についてのアドバイスをもらう。
- 6 設計士の方を招いて、家造りについての話や作った設計図についてのアドバイスをもらう。
- 7 これまでにもらったアドバイスをもとに設計図を描き直し、家を作るのに大切なことは何であるか考える。

準備品

大判用紙
プロジェクター
段ボール 他

実施場所

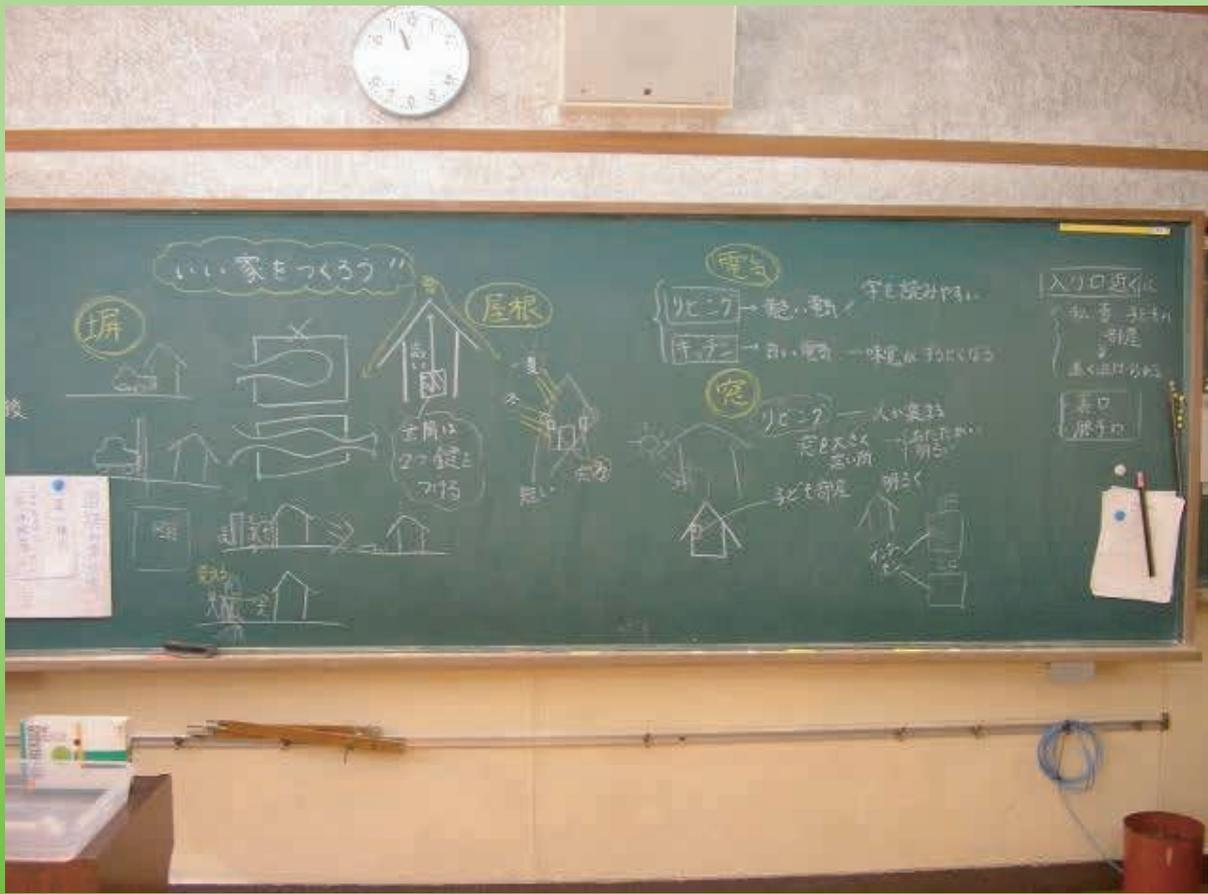
5・6年生教室

学習の流れ

場所・授業数	概要	活動の様子	反応
<p>教室</p> <p>1 時間</p>	<p>○いい家ってどんな家？</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもたちにどんな家に住みたいか質問した。 先生の家を作るならどんな家がいいか考え、簡単な設計図を作った。 	<p>どんな家がいいか話し合い、先生の家だとどんな家にするといいかたずねた。それぞれの児童が考える家の設計図を描いた。</p> 	<p>最初は、おもしろい家を考えていたが、「先生の家」という設定をしたことで、大人二人、子ども一人という家族状況に合わせた家を考えることができた。</p>
<p>教室</p> <p>1 時間</p>	<p>○ちょうどいい広さって？</p> <ul style="list-style-type: none"> 段ボール等を使い、家具の大きさなどから家の広さはどのぐらいがちょうど良いか考えた。 	<p>「ねこくんのうち」の本の読み聞かせを行い、広すぎる家も良くないことに気づかせた。どのくらいの広さがいいか、リビングを中心に考えた。</p>  	<p>実際の大きさを考えるために、段ボールを用い、机やイスを作って部屋の使い方を具体的に考えていったことで、それぞれの家族との関わりが反映された発言が見られた。</p> <p>「このくらいの大きさだと家族と話しやすい。」</p> <p>リビングにはこたつがある方が家族と一緒にいられていい。」など、家の機能と家族との関わりを意識した発言が多く見られた。</p>
<p>教室</p>	<p>○家について調べよう</p> <ul style="list-style-type: none"> 家を作るにはいろいろな条件があることを知り調べる。 調べたことをもとに、家の設計図を作る。 	<p>家の造りについて知っていることを発表した。話し合う中で、家には共通した要素があることに気づかせ、調べるきっかけとした。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>C：居間は大体は南側にあります。 C：うちも南側だ。 T：なんで南側なのかな？南側じゃないといけないの？ C：たぶん南の方が日が当たるからですよ。 C：じゃあ、北に台所があるのも関係があるのかな。 C：教科書に日当たりのことが載っていますよ。</p> </div> <p>その他には、</p> <ul style="list-style-type: none"> 防犯のための窓 災害時の避難しやすい部屋の位置 <p>などの意見が出た。</p>	<p>家の造りについて、それまでの経験から児童が知っていることについて発表させ、複数の意見に共通することに注目させた。</p> <p>共通した意見については、「なんでそうなっているのかな。」「ここじゃないといけないのかな。」などと問い返し、共通している理由に着目させ、調べ学習の観点をもたせた。</p>

場所・授業数	概要	活動の様子	反応
3 時間		<p>教科書や図書室の本、インターネットを用いるなどして、家を作るための構成要素を調べ、交流した。それをもとに、設計図を作った。</p> 	<p>調べたことを話し合う中で、光が入ること（採光）、風の通りが良いこと（換気）、安全であることなどの家作りの要素に気づくことができた。</p> <p>設計図を描くことで、調べたことなどの知識を再構成するようにした。</p> <p>グループで活動させることで、住生活に必要な要素を何度も確認しながら取り組むことができるようにした。</p>
教室 1 時間	<p>○いろいろな人に聞いてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校の家庭科教諭を招き、児童の設計図についてのアドバイスをもらった。 	<p>できた設計図をいろいろな人にも見てもらおうと投げかけ、中学校の家庭科教諭に来てもらいアドバイスをもらった。</p>  <p>最後に、家を作るには、「便利であること、家族とのふれあいができること、落ち着けること」が大切であることを話してもらった。</p>	<p>中学校の先生に評価してもらうことで緊張感が生まれ、意欲の高まりが見られた。</p> <p>自分たちの作ったものについての話であるため、主体的な関わりをもつことができた。</p>
教室 2 時間	<p>○プロの人に見てもらおう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 設計士の方を招いて、家造りについての話や、作った設計図についてのアドバイスをもらった。 	<p>プロの設計士の方に来ていただき、実際に使われている家造りのマニュアルをもとに作る時の基本的な考え方を話してもらった。</p>  <p>児童が考えた設計図について説明し、アドバイスをもらった。</p>	<p>プロならではの話を聞くことで、「将来こんな家を作ってみたい。」「家を作る仕事っておもしろそう。」など、職業についてのがこがれをもった発言が見られた。</p> <p>設計士の先生に自分たちの考えを説明することで、わかりやすく説明しようとする意識が生まれ、言語活動面での高まりも見られた。</p>
教室 2 時間	<p>○自分の家を見直そう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ これまでにももらったアドバイスをもとに設計図を描き直した。 	<p>アドバイスをもらったことをもとに、設計図を描き直し、完成させた。</p> 	<p>教えてもらったことをもとに、再構成して取り組んでいた。「家事動線がこうなって・・・。」「日当たりは南がいいから・・・。」など、思考面での高まりが見られた。</p>

児童の作品



先生の声

実施に当たり工夫した点 苦労した点

- 「自分たちで作る」という問題意識をもたせることで、主体的な学習を促すことができた。
- 調べたり聞いたりしたことについても、設計図を描くことで学習内容の再構成をすることができ、思考が深まった。
- プロに話を聞いたことや説明したことは、内容面の高まりという点でとても有効だった。また、キャリア教育にもつなげることができる活動であったと思う。
- 活動の始めの部分は、家の作り方をイメージしにくく、児童にとって難しい場面も多かった。どのようにして最初に調べさせていくかという点で苦労した。

児童・生徒の反応

- 学習が進むにつれて、家族に質問して来たり、自分や友だちの家を調べたりしてくるなどの探索的な取り組みが見られるようになった。
- プロに聞く学習のあとは、自主勉強で将来の家の設計図を描いてくる児童も見られた。家の学習に対して楽しんで取り組んだことが感じられた。

教師の変化

- ただ調べさせるだけでなく、再構成させることの大切さを感じる事ができた。
- 一般的には、プロとの関わりを一方的に受けることが多いが、児童の側からもプロに関わらせることの大切さを感じた。
- 小中の教諭による連携など、新たな可能性も発見することができた。